令和6年度第4回地域密着型サービス事業運営推進会議議事録

（特別養護老人ホームほうじゅの郷分）

１　開催日時　　令和6年11月29日（金）　13時30分～14時15分

２　開催場所　　特別養護老人ホームほうじゅの郷　会議室

３　出席者

　　　　　　〇運営推進委員

　　　　　　　　　川村和生（地域住民代表）

　　　　　　　　　川村　明（地域民生委員）

　　　　　　　　　高橋　誠（市民サービス課長）

　　　　　　〇事務局（施設職員）

　　　　　　　　　小原秀幸（施設長）

　　　　　　　　　中村勇子（ほうじゅの郷管理者兼主任生活相談員）

　　　　　　　　　岩谷大明（ほうじゅの郷生活相談員兼フロアリーダー）

４　欠席者　　　菊池知子（石鳥谷地域包括支援センター管理者）

　　　　　　　　　山口新吉（ほうじゅの郷家族の代表）

５　協議内容

1. 事業の進捗状況
2. 身体拘束に関する事項について（身体拘束適正化委員会）
3. 事故等に関する事項について
4. その他、情報交換等

６　会議の経過

　　　　　13時30分、小原施設長は運営推進会議の委員のうち、家族の代表山口新吉委員が家庭の都合で欠席であるほか、石鳥谷地域包括支援センター管理者菊池知子委員が緊急の要件にて急遽欠席される旨の連絡があったことを報告し、３名にて会議をすすめることを確認し開会を宣言した。

小原秀幸　　本日はお忙しい中ご出席をいただき誠に有難うございます。

　　　　　　　日頃から当施設の事業運営につきましては格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

　　　　　　　今回の運営推進会議におきましては、直近の事業の運営状況や身体拘束等の状況、事故発生状況等について委員の方々にお示しし、ご意見やご指導をいただきたいと思っておりますので、忌憚のないご発言を沢山いただけますよう宜しくお願いいたします。

　小原秀幸　　それではこれよりほうじゅの郷の協議に入ります。

　　　　　　　はじめに事業の進捗状況等について説明をお願いします。

　中村勇子　　資料に基づいて詳細に説明をする。

　　　　　　　　（１）入居者状況

　　　　　　　　（２）介護職員の状況

　　　　　　　　（３）行事、活動の実施報告等

　　　　　　　　（４）ユニットケアに向けた取り組みの中間報告

　　　　　　　　（５）会議、委員会等の内容と実施報告

　　　　　　　　（６）内部研修の内容と実施報告

　小原秀幸　　只今事務局より説明がありましたので、委員の皆様からのご発言をお願いします。

　高橋　誠　　ユニットケアの取組の中で、施設見学をされたと報告がありましたが、どのような目的をもって見学されているかということがひとつと、食事に関して、大皿から取り分けて配膳されるなど手間がかかっているなあという印象ですが、瀬戸物食器に拘っている考え方とか、目指している施設などが教えて頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

　中村勇子　　ユニットケアに取り組んでいる施設の中で、特に模範となるものには「実地研修施設」というものがあります。県内では大槌町の「らふたぁヒルズ」さんですとか、金ヶ崎町であれば「あすなろ」さん、最近では「いしどや荘」さんが実地研修施設に登録されております。そういうところでは、従来型の施設ではなく、「家の暮らし」に拘り、その雰囲気を出すために例えば、食器は瀬戸物を使ったり、家具や小物なども自分が使っているものをそのまま施設に持ち込んでもらい、家庭や今までの暮らしの延長という観点で、取り組んでおられます。

　川村　明　　ユニットケアとして認めてもらうには検査みたいなものを受けて認証してもらうということですか。

　中村勇子　　そのとおりです。検査や評価の項目も数が多くて、私たちもこれに向けて職員の動きとか暮らしのリズムとか、設備などを見直しながら暮らしやすい家づくりに取り組んでいるところでございます。まだまだ課題は多いですが・・・。

　川村　明　　私は前職でISOへ取り組んだ経験がありますが、業務の効率化とか生産性などの評価がありますけど、そのようなイメージですかね。

　中村勇子　　生産性の向上については、ユニットケアとは別物かもしれませんが、働き手が少ない中で福祉の業界も生産性とか介護ロボットの導入、ＩＣＴ化の推進が求められております。私たちもユニットケアを行いながらも、介護機器とか福祉用具などを積極的に取り入れながら介護業務の充実を図っていきたいと思いますし、各種加算の要件になっていますので、機械の操作が面倒だとか、歳だから無理だとか、言ってる場合ではなくて、勉強会や研修をしながら身に着けなければならないということだと思っています。

　小原秀幸　　ユニットケアの考え方の根幹には、例え高齢になり不自由であっても、またどんなに認知症状がひどくなっても、人としての尊厳が尊重され、自分らしく生きることの権利が守られること、というところだと思います。「自立支援」と言った方が分かりやすいかもしれません。このようなことから、施設側も変化してきている福祉の考え方に沿って、ユニットケアをはじめ、従来型の施設での介護や支援の仕方も変わってきていると思っています。新たに施設を建てるときもユニットケアができる環境でなければ補助金の対象とはなりませんし、指導監査においても、画一的な介護になっていないか、入居者の尊厳は守られているか等、調査項目も変わってきているように思います。

　　　　　　　ＩＳＯのお話もいただきましたので少し加えますと、ユニットケアの原理原則に沿って運営されている施設には、審査や評価を踏まえ、ユニットケア実践施設として認定されるというイメージで宜しいと思います。福祉施設でもＩＳＯの認定を受けている施設もある中、第三者の評価を受けて公表することは施設の知っていただく機会でもありますし、サービスの質の向上に繋がるものと認識しておりますので、職員も頑張って取り組んでいるというところです。

　川村和生　　それぞれの食器を持ち寄ってくるということのようですが、実際には何割ぐらいの方がそうしているのですか。

　中村勇子　　自宅から持ってきていただいている方は全体の4割程度だと思われます。ただ、施設の方で瀬戸物の食器をいただいているもの多くございますので、それらを使いながら食事を楽しんでもらってます。

　　　　　　　やっぱり食器一つとっても、家庭的な雰囲気は出てきますね。

　川村和生　　お世話される介護職員さんも、それだけ大変なことでもありますよね。

　小原秀幸　　そうです、よくやっております。ですが職員に何時も言っていることは「自分が施設に入ってお世話されるとしたらどうか」ということを考えて行動してほしいと言っております。家庭でいることの方がいいに決まっている中で、縁あって施設に入居することになった人の気持ちを汲み取り、如何にして豊かな生活・余生を送っていただくかを考えようと。その気持ちになって仕事をしてもらっていると信じています。

　川村　明　　従来の施設で暮らしている方とユニットケアで暮らしている方とでは、どのような違いがあるものですか。例えば介護度のこととか、何か比較できるものってありますかね。

　中村勇子　　一人ひとりの声を聴きますと、自分のリズムで暮らせるところがいいという人がいる一方で、みんなで一緒にいる方がいいとか、感じ方は人それぞれですから、明らかな形で違いを評価できるかは難しいですし、ほうじゅの郷もまだまだ発展途上でおりますので・・・。

　川村　明　　難しい質問でしたね、数字で表せるようなものでもありませんからね。

　小原秀幸　　尺度としては難しいですね、ただ見た目の違いで言うと、入居者の表情が豊かになっているとか、先程も話があったように個別対応のしやすさとかはあると思います。急に家に行ってみたくなったとか買物に行きたいとか等、割と待たせることなく対応が出来ていると思っています。

　小原秀幸　　その他何かございませんか。

　　　　　　　特に無いようなので、次の内容に移ります。

　小原秀幸　　身体的拘束の状況については、その事例や検討事項は無いようですから、次の事故等の状況についての説明をお願いします。

　中村勇子　　資料に基づいて詳細に説明する。

　　　　　　　　（１）外傷2件

　　　　　　　　（２）転倒1件

　　　　　　　　（３）与薬1件

　　　　　　　　（４）チューブ自己抜去1件

　小原秀幸　　只今の説明について委員の方々からのご発言をお願いします。

　　　　　　　この事故の中で、花巻市への報告案件はありましたか。

　中村勇子　　チューブ自己抜去は挿入のために通院が必要ですから花巻市へ事故報告として書類を提出しております。

　小原秀幸　　その他、何かございませんか。

　　　　　　　特にないようですので、次のその他・情報交換等に移ります。

　中村勇子　　資料に基づき詳細に説明する。

　　　　　　　●介護テクノロジー活用支援による生産性向上への取り組み

　　　　　　　　・生産性向上推進体制加算

　　　　　　　　・夜勤職員配置加算の取得に向けての課題

　小原秀幸　　只今の説明についてご発言をお願いいたします。

　　　　　　　前述したように介護職員の不足が予測されている中で、それを補うためにも介護ロボットの導入やＩＣＴを活用して生産性向上を図ることが求められていて、これに対応する介護報酬上の加算の算定ができることになっております。

　　　　　　　因みに特養は介護ロボット導入支援補助金に申請している機器は何ですか。

　中村勇子　　移動用リフトと特に夜間時における職員間の連携強化を目的として、インカムの導入をお願いしております。

　小原秀幸　　事業は補助金の交付決定を受けておりまして、12月末までに機器の納品が完了する予定でございます。次回の運営推進会議には、お披露目が出来ると思いますので体験などしてもらえたら宜しいかと思っております。

　　　　　　　その他、何かございませんか。

一同特に無しの声

　小原秀幸　　有難うございました。これからも委員の皆さんからご意見やご指摘をいただきながら適切な運営を心掛けて参りますので、引き続き宜しくお願いいたします。

　　　　　　　以上をもちまして、ほうじゅの郷の運営推進会議を終了とさせていただきます。有難うございました。

　　　　　　　引き続き、はなみずき石鳥谷の会議に入りますが、準備のため暫くお待ち願います。

閉会　　14時15分

議事録作成者

社会福祉法人宝寿会事務局

特別養護老人ホームほうじゅの郷

はなみずき石鳥谷

施設長　小　原　秀　幸　　　　㊞